

## 令和4年度長崎県普及指導活動外部評価会議結果報告書

項目	内容等
趣旨	本県の農業者や地域のニーズを的確に捉え、より効果的・効率的な普及活動を展開するため、幅広い視点から普及指導活動を客観的に評価し、得られた評価結果をその活動に反映・改善していくことを目的に実施した。
評価方法	評価の項目は次のとおり。 ・普及指導活動の実施状況(課題設定の背景・目的、普及指導活動の内容、成果等)  なお、普及指導活動の実施状況の外部評価は、毎年度、2振興局を対象とし、令和4年度は県央振興局と五島振興局を対象とした。
実施時期	令和4年8月17日(水) 11:00～15:15
実施場所	長崎市琴海文化センター
外部評価委員	8名(先進的な農業者、若手農業者、女性農業者、農業関係団体、消費者、学識経験者、マスコミ、民間企業)

# 評価結果

## 普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	評価した点	普及活動に対する提案	普及指導活動への反映状況
県央 振興局	新規自営就 農者確保と育成	<b>課題設定</b> ・関係機関との情報共有、連携が新規就農につながっている。 ・JA、部会の取り組みが大きく、部会内で経験者が新規就農者をサポートしている。多くの新規就農者の獲得になるようなモデルケース。 ・スマート農業技術を活用し、データによる生産管理(目標設定)と技術の向上が成果として表れている。	<b>課題設定</b> ・規模拡大時の新規就農者の農地確保のフォローをお願いする。  ・新規就農希望者への労働力の確保・資金繰りも含め、家族がいても成り立つ経営ができるまでのサポート体制の充実・更なる整備を望む。今後も相談しやすい場の設定をしてほしい。	<b>課題設定</b> ・新規就農者が営農活動を開始された後も、営農技術や経営技術の向上に向け、関係機関と情報共有を図りながら、継続したフォローアップ活動を行っております。今後も、新規就農者の規模拡大の折には、農地確保をはじめ、補助事業、制度資金等の活用についても引き続き支援を行います。  ・今後とも、新規就農希望者それぞれの家族環境に応じた営農が開始できるように、事前の聞き取りや面談を丁寧に行い、関係機関と情報共有を図りながら、営農開始に必要な支援を行ってまいります。併せて、継続した支援、指導により、新規就農者が相談しやすいコミュニケーションづくりを図ってまいります。
		<b>活動方法</b> ・部会内での情報交換がより多くできている取り組みが良い。 ・一人一人の生産者の状況を把握した上で指導している。 ・関係機関との連携、役割分担が適切。	<b>活動方法</b> ・地域で活躍するような次世代のリーダー育成もお願いする。  ・関係団体以外との交流をお願いする。将来の食を考えるためにも広く取り組んでほしい。  ・他地区の関係機関・団体にも情報共有し更なる仕組みのブラッシュアップを望む。	<b>活動方法</b> ・次世代リーダー育成の一環として、地域のリーダーである長崎県農業士の研修会へ新規就農者の参加を促し、農業士との交流を図る等の取組を行っております。当地域で新規就農された方々が、地域の一員となり、次世代を牽引していくリーダーへと成長できるように、今後とも関係機関と協力しながら人材育成を図ります。  ・今後の農業経営においては、デジタル(スマート)化や脱炭素化および有機農業の導入などが必要とされてきますので、将来の食を考える上でも、様々な分野の方々と協力しながら情報収集及び情報提供に努めます。  ・今後の新規就農者の営農開始(新規就農に向けた研修受入への相談対応、知識・技術の習得、農地借入、補助事業活用、資金借入)に役立てられるように、他地区の関係機関・団体とも情報共有を行い、新規就農者の就農に関わる様々な事例を収集し、就農支援のブラッシュアップを図ります。
		<b>活動の成果</b> ・新規就農者に対しての部会からのサポートが良く新規獲得ができる基盤がある。 ・新規就農者の成果がでることで、他の生産者の刺激、今後の担い手の確保にもつながり、地域のモデルとなる。 ・当初の目標を達成しており、普及指導員の尽力を評価。	<b>活動の成果</b> ・パッケージセンターの開設(労働力の軽減)で栽培管理の徹底による単収増加を期待する。  ・いちご部会の取組を動画などを通してPRしてほしい。農業に興味のある若い人向けに成果を発信できる工夫ができれば良い。(PRは農業の課題の一つと思う。)	<b>活動の成果</b> ・パッケージセンターの開設については、農業者からの要望も多いことから、JAや市とともに情報共有と設置に向けての検討を行います。  ・「動画」での情報発信については、今後検討してまいります。また、ホームページやSNS、動画と併せ、「つたえる県ながさき(県広報誌)」、「振興局農林部だより」などにより、就農情報の発信強化にも取り組んでまいります。

# 評価結果

## 普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	評価した点	普及活動に対する提案	普及指導活動への反映状況
県央 振興局	基盤整備後の経営規模の拡大と産地育成	<b>課題設定</b> ・現場と一体となった課題設定であり、機械導入、労働者確保が成功している。 ・分析データに基づく種いもの「見える化」や機械の実演会等の体験が生産者の気づきにつながり、改善につながっている。	<b>課題設定</b> ・機械導入が進むような活動をお願いする。  ・地域の特性を活かして、担い手とともに課題を見つけ、生産から販売までの改善に向けての取組を生産者と一体となり進めてほしい。	<b>課題設定</b> ・農地の基盤整備、選果施設や省力化機械の導入により、個別経営の規模及び産地の拡大が可能となり、ひいては、所得の向上や、若い農業者の就農に結び付けております。今後も産地の維持・発展のためには、機械導入が必要と考えておりますので、引き続き、省力化、作業軽減につながる「ばれいしょ収穫機、ドローン防除」等の機械の導入、普及推進に努めます。  ・当地区には多くの担い手があり、これまでも部会の役員や地域のリーダーを中心に担い手の意見を反映し、基盤整備や選果施設・機械の導入、地域ブランドとしての品種選定、作業受託組織の育成など関係機関と課題解決に向け取り組んできました。販売戦略についても長崎ばれいしょの市場評価を高めるため、4月出荷に向けた新品種(アイマサリ)の導入推進や鹿児島県との産地リレー出荷の協議、市場との長崎産の販売戦略会議等、連携しているところです。今後とも、担い手、部会と関係機関が一体となり、産地の強化に努めます。
		<b>活動方法</b> ・種いもの大きさを「見える化」し、エビデンスに基づく提言をされ、生産社の意識変化に結びつけられている点が良い。 ・生産者・JA等とこれまでの信頼関係に基づき適切に活動されている。	<b>活動方法</b> ・若い人(学生・子ども)にもより農業という仕事の身近さを体験して感じてもらうプログラムを行い、普及につなげてほしい。	<b>活動方法</b> ・地元農業高校生を対象とした地域農業や先進農家の視察、農業大学校生の農家研修により、学生が農業と接する機会を提供し、魅力ある職業として農業をPRしております。また、消費者へのPRとして、産地においてテレビ、雑誌等の取材を受け入れており、これからも農業の魅力発信に努めます。
		<b>活動の成果</b> ・JAや(株)エヌと連携し、農家の労力不足を支援している。 ・今後更なる成果が表れてくることを期待する。 ・分析データに基づいた技術指導により、生産者の意識が着実に変化している。 ・基盤整備や省力化への取組等により若手の農家が多く、将来への希望が持てる状況になっている。	<b>活動の成果</b> ・産地間での調整も含めて、外国人労働者の雇用を積極的にすすめてほしい。また、農家が外国人労働者を安心して雇用できるよう、外国人労働者の管理について体制の整備・支援もお願いする。  ・労働力確保については、農業関係だけではなく他の機関とも連携し、地元の人とのマッチングやPRの強化をお願いしたい。	<b>活動の成果</b> ・JAや(株)エヌと連携し、R2年に当地区のばれいしょ経営において、特定技能外国人の雇用を試験的に開始し、外国人労働者の働きぶりを他の生産者や部会に伝えるよう、動画を撮影しPRを行ってきました。特定技能外国人の入国制限がR4年3月より規制緩和されたことから、JAばれいしょ部会、にんじん部会、だいこん部会への活用推進を図るとともに、宿舍等の受入体制、県内外の産地とのリレー派遣、夏作野菜の導入などJA・部会と協議を実施する等、外国人の管理体制の整備を継続して支援していきます。  ・特定技能外国人の活用以前から、JAと連携し、地元を含めた長崎・島原・県央地域を対象に、ばれいしょ収穫の雇用マッチングなどを支援することともに、農福連携を進めるための、体験会の支援や作業のマニュアルを作成、推進を図ってまいりました。今後も、労働力確保にむけ、農林部、福祉部、関係団体との連携推進、新聞折込ちらしをはじめとした周知活動、優良事例調査や情報共有を図り、マッチングやPR強化を支援します。

# 評価結果

## 普及指導活動の実施状況

振興局名	課題名	評価した点	普及活動に対する提案	普及指導活動への反映状況
五島 振興局	繁殖雌牛 5,000頭達成 に向けた産地 づくり	<b>課題設定</b> ・技術の習得、施設の整備、生活・経営資金の確保の3つの視点に焦点をあて課題、普及の支援、結果について、わかりやすく述べられていた。 ・「べべんこはーと」の組織づくりで経営状況も踏まえて勉強できるのは素晴らしい。 ・ゼロからの新規就農者への手厚いサポートに感謝する。	<b>課題設定</b> ・持続可能性を高めるため今後ますます長期的視点に立ち、法人化や島外からの就農時には婚活パーティーの開催等営農者を巻き込む形での取組の継続を期待する。	<b>課題設定</b> ・農業者の法人化支援については、農業経営相談所の専門家派遣制度を活用しながら、法人化意向農家の支援を継続していきます。また、独身農業者については、五島市と連携し、若手生産者組織の集まりを通じて、五島市が主催する「めぐりあい交流事業」による婚活イベント等への参加を促していきます。
		<b>活動方法</b> 関係機関と連携し、組織する協議会を中心として、生産振興、生産者への円滑な支援を行っている。 ・オンラインによる高校生への情報発信は将来につながるためにも良い事例である。 ・若手の組織づくりが良い。 ・普及指導活動が適切であったからこそ結果につながっている。	<b>活動方法</b> ・若手の組織や青年が県内・全国で活動しやすいような支援をお願いする。	<b>活動方法</b> ・若手の農業者組織や青年農業者については、長崎県青年農業者連絡協議会主催の青年農業者が活動実績を発表するナガサキアグリネットフォーラムや九州沖縄地区農業青年クラブ連絡協議会主催のリーダー研修会等への参加を促すことにより、今後とも、他地域の後継者とのパイプ作りを支援していきます。
		<b>活動の成果</b> ・事例がわかりやすい。一つ一つの課題を様々な方法でクリアし、目標を達成、大きな成果をあげている。 ・各種支援制度の活用や生産者支援により新規就農者数が増加している。 ・五島の事例を他で波及してほしい。	<b>活動の成果</b> ・若手生産者組織「べべんこはーと」のさらなる活躍を期待する。  ・農業や畜産を目的にした移住者が増えるような魅力づくりができれば良い。  ・今後も離島でも本土と変わらぬ支援体制をお願いする。五島全体の活力としてがんばってほしい。	<b>活動の成果</b> ・若手生産者組織に対しては、引き続き、定期的な定例会の開催、課題解決に向けた会員農場での現地試験の実施等、積極的な活動支援を継続していきます。  ・五島地域の温暖な気候を活かした農業振興策の1つとして、移住者を含め就農支援対策を行ってまいりました。今後とも、雇用型経営が可能となる農業所得1,000万円農家の育成等、魅力ある農業を目指した取組を継続して支援していきます。  ・今後とも、本土地域と十分に連携し、ICT機器の導入推進等、本土地域と変わらぬ最新技術や情報を届け、五島農業の振興を行ってまいります。